

それ、本当にいる？

西南学院高等学校 1年 中村 慧美

「まだ使えるでしょ？」「まだ家に残ってるよ」

これは買い物をするときに、私の母がよく口にする言葉だ。私は小さい頃から興味をそそる物を欲しがる性格で、よくあれこれと母にねだっていた。父も私と似ており、一緒に100円ショップへ行って、その商品がいいなと思えばすぐに買ってしまう。だが母だけは違っており、新しい物よりも、今あるものを大切にしていた。例えば、服は最低3年、靴は2年、鞆は5年。そんなふうに、十分使わない限り、あまり新しいものを買おうとはしない。家族で買い物に行くと、私と父で母に服や雑貨を提案し、却下されることがよくある。私はこれまで「少しくらい物が増えても問題ないだろう」と思っていたが、初めての引越しを経験したとき、今までの私の考え方が環境問題に繋がってしまうのかもしれないと気づいた。

引越しをするときに断捨離をしたのだが、捨てられた物の量に衝撃を受けたことを今でも覚えている。捨てられた物の多くはあまり使われなかった雑貨や服、そして家具だ。使い古され使えなくなった物を捨てるのは当然のことかもしれないが、まだ使えるものを捨ててしまうのは少し悲しかった。しかし、断捨離によって家に必要な物、不要な物を全て可視化することができた。その結果気づいたことは、私が捨てた不要な物の多くは、そのときの好奇心を満たすために買った物であったということだ。

家にある物の量は人それぞれだが、普段使わない物がいくつもあるという人も多いのではないだろうか。私がそのような物が増える原因として考えるのは、魅力的な商品の豊富さ、安価な店の増加、そして現代の流通の発達だ。商業の発展に伴い、多くの企業が同じような商品を作るようになり、競争が激化している。その結果、商品の質は磨

かれ、より派手で心惹かれる広告は増え、多くの人が直感的に「欲しい」と思う商品が大量に生産されていった。これらの商品がデパートやスーパーに大量に並べられ、さらにネットショッピングなどで簡単に手に入れることができるようになり、私達が「欲しい」と感じる機会も増えた。また、安価なショップで機能的で斬新な商品が安く買えることも、衝動買いの原因の一つとなっているように思う。このように必要ではなくても、その場の自分の好奇心を満たす目的で安く気軽に買ってしまい、その結果ほとんど使わず放置されていることが多いのではないだろうか。

世界において廃棄物の量は、年々増加傾向にある。現在なんと毎年約21億トンものごみが廃棄されている。もちろん人口が増えているのだから、ごみも必然的に増えるのかもしれない。しかし、各家庭でごみを減らす意識を持つことで、全体の廃棄物の量を減らすことができるのではないかと思う。食品であれば賞味期限をよく見て食べ残しをしない、物であれば必要以上に買いすぎないなど、解決の方法は今までたくさん考えられてきた。あとはみんなの意識だ。今、物を簡単に買える世の中で、みんなが一步踏みとどまって、目の前にある魅力的な商品が「本当に必要かどうか」を考えることができる意識を持つことができれば、悲しくも使われず捨てられる物は減っていく。断捨離は1つの例に過ぎないが、一度家に何があるのか、どれだけ不要なものがあるのかを可視化させることは重要だ。いらない物が多ければ、買い物をするときにその物が必要かどうかをより意識するべきだろう。すべての人にミニマリストになれと言っているわけではない。ただ、衝動買いの末路がゴミ箱の中となるならば、結果的に世界のごみは増えてしまうのだ。だからこそすべての人に、自分の欲だけに従わず、「本当に必要か」「まだ同じ物が家にある」「まだ使える」という意識を持って過ごしてほしい。私たちが買い物で一步踏みとどまって考えることで、ゆくゆくは世界が抱えるごみ問題を改善できると私は信じている。